キャラクター名
陽海 仁　（ヒウミ ヒトシ）

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ ブラックドッグ	ワークス	UGNエージェントD	カヴァー	学者
オプショナル		年齢	39 歳	性別	男
覚醒	素体	衝動	憎悪	初期侵食率	43 %
出自	安定した家庭	経験	仲間の死	邂逅	リ・ボーン

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	0	0			4
感覚	2	0	0			2
精神	2	0	0			2
社会	0	1	0			1

HP	30
行動値	6
(非装備時)	6
戦闘移動	11
全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		ＲＣ	1		交渉	1	
回避			知覚	1		意志			調達	8	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
リニアキャノン	射撃	2r-1		8		イニシアチブにオートで装備可。この攻撃に対するドッジは、判定のダイスが2個減少する。
クリスタルシールド	白兵	4r-1	12	0		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
※アーマースキン		4			1シーン1回に限り、受けるHPダメージを1D点軽減する。

合計装甲：	4	合計回避：	0

所持品

ウェポンケース	
マグネットコーティング	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
D：機械化兵（フルボーグ）	P	N		
級友たちとの思い出	P　慕情	N　憎悪		
千城寺薫	P　有為	N 猜疑心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	18	残り財産P：	0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
ハードワイヤード	3	ー	常時	至近	自身	自動	ー	
効果：ブラックドッグ専用アイテムを獲得。基本侵蝕率に＋4。								
磁力結界	5	3	オート	至近	自身	自動	ー	
効果：このガードの間、ガード値を＋(LV)Dする。								
電磁障壁	1	2	同上	同上	同上	同上	ー	
効果：1シーン1回。このガードの間、ガード値を＋4Dする。								
マグネットフォース	1	2	同上	同上	同上	同上	ー	
効果：1メインプロセス1回。行動済みにならずにカバーリングが可能。								
アームズリンク	1	2	メジャー	武器	ー	射撃	ー	
効果：このエフェクトを組み合わせた判定のダイスを＋LV個する。								
コンセ：ブラックドッグ	2	2	同上	ー	ー	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	ー	
効果：いつもの（C値－LV）								
電磁反応装甲	1	10	オート	至近	自身	自動	120↑	
効果：重圧でも使用可。1シナリオLV回。受けるHPダメージを20点軽減する。効果は一度に累積させられる。								
マグネットチェイン	1	4	オート					
効果：								
球電の盾	4	1	オート					
効果：								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

ダメージ軽減期待値。
平時：装甲4（4）＋ガード35（5D+2+8）＋Dロイス10＝49点
クリスタルモード：ガード＋12＝61
全力：ガード＋20（+4D）＋ダメ軽減25（20+1D）＝106

命中：7dx□1@7　攻撃：8
オートでクリスタルシールドを展開し、イニシアチブでリニアキャノンを再装備する。

オーヴァードとなった契機は六年前、とあるホテルでのことだ。ホテルのパーティー会場を貸切って行われていたのは、高校時代の友人らとの同窓会。久しく会っていなかった者に普段でも付き合いが続いていた者と大勢の人間が集まった同窓会は盛り上がり、思い出話や近況報告に花が咲いていた。しかしどうしてか、そんな細やかな幸せが続くことは許されなかった。突如として現れた怪物は出席者へと次々に襲い掛かると、瞬く間に会場を血で染め上げていく。仁とてその例外ではなく、逃げ出すことすらできずに異形の爪によって体を貫かれる。体を濡らしていく血だまりが果たして自分から流れ出たものなのか、それとも少し前まで隣で笑っていた友達にものかも分からないまま、響く悲鳴はだんだんと耳から遠のいていった。
次に目を覚ますと、そこは知らない天井だった。そして何より、鏡で見せられた自分の姿も見た事のないものに変わってしまっていた。その時から、仁の体を構成しているのは柔らかい肌色の肉ではなく、光を通して透き通る硬い石英の結晶となったのである。
「世界で最も美しい体を手に入れた気分はどうだい？」
仁を死の淵より引き揚げた研究者はそう言った。そして事の顛末を語り出した。
現場に急行したUGNによって深い傷を負った同窓生たちの肉体は回収され、まだ脳が死んでいない者はクォーツで造られた新しい体との適合実験を行われた。もとよりまだ生きていた脳も少なかったが、失敗で素体の残り数が減っていく中ようやく仁の番で適合実験は成功を修め、余った生存者たちは廃棄された。

残った生身の部分はわずかな内臓と頭脳のみ。脳についても幾らかの損傷から、記憶機能に甚大な障害を受けてしまった。新しいことをほとんど覚えることがで